〔日本山海名産圖會三〕鰒

制長鮑（のし）○註略

先貝の大小に隨ひ、剝べき數葉を量り、横より數々に剝かけ置て、薄き刃にて薄々と剝、口より廻し切る事圖のごとし、○圖略豐後豐島（テシマ）薦に敷き並らべて乾が故に、各筵目を帶たり、本末あるは、束ぬるが爲なり、さて是をノシといふは昔は、打鰒とて、打栗のごとく打延し、裁截などせし故に、ノシといひ、又干あはびとも云へり、

又干鮑、打あはびともに、往昔の食類なり、又薄鮑とも云へり、江次第忌火御飯の御菜四種、薄鮑、干鯛、鰯、鰺とも見へたり、今壽賀の席に、手掛或はかざりのしなどとして用ゆることは、足利將軍義滿の下知として、今川左京大夫氏頼、小笠原兵庫助長秀、伊勢武藏守滿忠等に、一天下の武家を十一位に分ち、御一族大名守護外樣評定等の諸禮に附て、行はせらるより起る事、三儀一統に見えたり、往昔は天智帝の大嘗會に、干鮑の御饌あり、延喜式諸祭の神供にも悉く加へらる、第一伊勢國は本朝の神都にして、鎮座尤多し、故に伊勢に制する所謂（ゆえん）、又は飾物にはあらずして、食類たることも知るべし、○下略

〔平治物語三〕頼朝遠流事附盛安夢合事

盛安○纐申ケルハ、都ニテ御出家不可然由申候シハ、不思議ノ夢想ヲ蒙タリシ故也、君○源頼朝御淨衣ニテ、八幡ヘ御參候テ、大床ニ座ス、盛安御供ニテ、數多ノ甃ノ上ニ伺候シタリシニ、十二三許ナル童子ノ、弓箭ヲ抱テ大床ニ立セ給、義朝ガ弓胡籙召テ參テ候ト被申シカバ、御寶殿ノ内ヨリケダカキ御聲ニテ、深ク納置ケ、終ニハ頼朝ニ給ハンズルゾ、是頼朝ニクハセヨト被仰レバ、天童物ヲ持テ、御前ニ差置セ給、何哉覽ト見奉レバ、打鮑ト云物也、君恐テ無左右參ラザリシヲ、其タベヨト被仰、數ヘテ御覽ゼシカバ、六十六本アリ、彼鮑ヲ兩方ノ御手ニテ押ニギリテ、太キ所ヲ三口進